

森の中のお花畑



10月2日 都立狭山公園 トウカエデの林

狭山公園のトウカエデの林は、これまで大きな伐採が行われず、木々の枝葉が重なり合い、暗い林になっていました。そのため、昨年の冬に樹勢の弱ったトウカエデなどを間引き、残った木々が枝葉を伸ばせるようにしました。地面に光が届くようになったためか、春にはマルバスマシ、ヤブタバコ、ハナタデなどの草花、さらにトウカエデやトチノキなどの実生（みしょう：種から生えた木の赤ちゃん）が以前にまして見られるようになりました。今は一面にハナタデのお花畑が広がっています。これらの花が終わる冬には、林の中の草刈りをします。光が地面に届き、春先のスマシなどが開花しやすくなるでしょう。森が若返れば、そこに住む様々な生きものたちも元気になります。野草や、それを利用する虫たちの変化にも、ぜひ注目してみてください。